

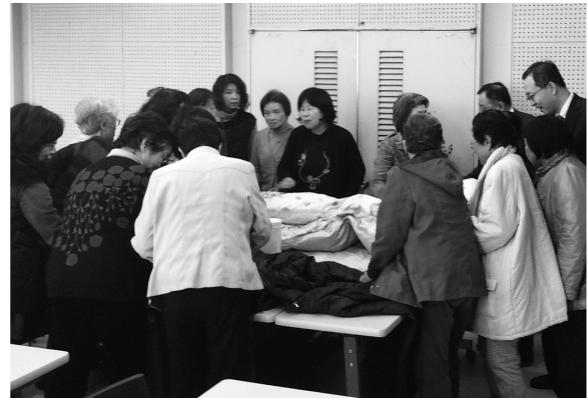
# 羽毛製品講習会を開催いたしました。

【羽毛ふとんの知識啓発事業】

## 羽毛製品講習会(兵庫県福崎町)

3月14日(土)兵庫県福崎町消費者の会にて羽毛製品講習会を実施致しました。会場となった、兵庫県福崎町立生活科学センターには、一般消費者及び相談員の方が43名集まり、DVD放映、派遣講師(羽毛製品アドバイザー)の岡本八大氏、佃光明氏による講習の後、質疑応答が行われました。

羽毛製品の選び方、羽毛製品の参考価格、羽毛製品のお手入れ方法等について活発な意見交換がなされ、参加者より大変参考になりましたとの意見が沢山寄せられました。



## 羽毛製品アドバイザー派遣を行っております。

### 1. 主な講座内容

羽毛製品(羽毛ふとん、ダウンウエア関係)の品質と価格、製品の選び方及びリフォームなど羽毛製品全般

### 2. 講師派遣に関する費用及び人数

講師派遣に関する費用は無料。ただし、会場設営等に関しては、主催者側でお願い致します。参加者人数は、約20名以上。講演時間は、約120分程度です。

### 3. 講師派遣申込み方法

当組合にご連絡ください。開催ご希望日、場所等に応じアドバイザーを派遣致します。各消費者関係機関での通年行事として、定期的な講演も承ります。 電話 03-5649-2285



# 日羽協ニュース

[編集発行] 日本羽毛製品協同組合

[事務局] 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-12-4白鷺ビル7階

TEL 03-5649-2285 FAX 03-5649-2286 ホームページ <http://www.nichiukyo.org>

## 第21回日本中国台湾三方羽毛会議を開催。



平成27年9月8日、横浜ベイホテル東急にて、第21回日本・中国・台湾三方羽毛会議を開催致しました。

主催国日本から日本羽毛製品協同組合加盟社を中心に関係者67名、中国から中国羽絨工業協会関係者77名、台湾から台湾区羽毛輸出業同業協会関係者48名、合計192名が参加し、情報交換や市場報告が行われました。

8日の会議では、日本・中国・台湾の各羽毛組合

の理事長より挨拶の後、各国の羽毛市場報告があり、日羽協からは、日本における羽毛製品の市場報告や現在抱えている羽毛原料の問題点を説明し、昨今の羽毛原料の品質低下問題についても、改善を申し入れました。

会議期間中は中国・台湾の主要羽毛原料メーカーが参加されたこともあり、有意義な意見交換が行われました。

# 羽毛ふとんのできるまで

快適な眠りをもたらしてくれる羽毛ふとん。身近なものです、どれくらいのプロセスを経て作られているかご存知ですか。採取した羽毛を単純に袋に詰めただけではふとんにはなりません。今回は、羽毛ふとんができるまでをご紹介します。

## 1. 羽毛の洗浄加工

羽毛製品に使われる原料羽毛は、100% 海外からの輸入品です。現地で加工したうえ輸入されますが、採取した状態のまま日本に入ってくることもあります。採取されたままの羽毛には、ホコリや砂が混じり、鳥の脂や垢も付着しているので、寝具としての安心を確保するためには加工が必要です。

### 1.除塵

乾燥状態の原料羽毛から、砂や塵埃、羽毛の垢などをまず取り除きます。

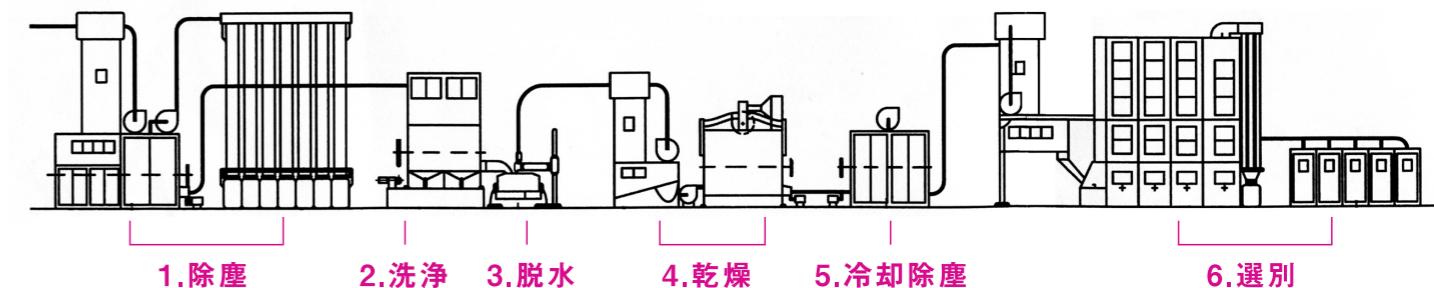


### 2.洗浄

大量の水、良質な洗剤と殺菌剤を用い、十分な時間をかけて、羽毛を洗浄、殺菌します。

### 3.脱水

巨大な脱水機で、含有水分の60%まで水分を除去します。



### 4.乾燥

湿った羽毛を、100度以上の熱風で乾燥させます。この段階で羽毛に付着した虫やその卵を死滅させます。急激に乾燥することでダウンは理想的な形に開きます。



### 5.冷却除塵

熱くなっている羽毛を冷却するとともに、再度、細かなホコリや虫の死骸などを徹底的に取り除きます。



### 6.選別

良く乾いた羽毛を、風の力を用いて選別します。風に舞った羽毛はその重量により、ダウン、小さなフェザー、大きなフェザーと分けられ、羽毛ふとんの充填行程に送られます。

# 羽毛ふとんのできるまで

## 2. 羽毛の充填

羽毛ふとんには、平キルト、立体キルト、特殊立体キルトなど、様々な仕立てのものがありますが、どの仕立てのキルトでも、羽毛充填装置を使用して羽毛を充填しています。

羽毛充填装置には、大きなタンクがあり、まずそこに充填する羽毛を投入します。タンクからつながっている細い筒を通して、側生地に羽毛が送られます。1マスずつ羽毛を充填し、全てのマスに充填し終えると筒を抜き、筒を通してふとん外周の穴を縫製したら完成です。

1マスに充填する羽毛の量は、ふとんの種類により様々。また、同じふとんでも、マスの位置により羽毛の量を調整することがあります。現在では、コンピュータにより羽毛の量を制御するメーカーも数多くあります。

羽毛ふとんは、いくつかのマスに仕切られていて各マスには羽毛をホースで詰めるための穴が開いています。この穴が開いたまま長年使用しているうちに羽毛が移動して偏ってしまいます。この羽毛の移動を防ぐために穴を塞いだり、特殊なトンネルを作ったりと、各メーカーは独自の方法で様々なキルトを開発しています。



# 羽毛ふとんは理想の寝具

厳しい環境の中で水鳥を育んできた羽毛から、多くのプロセスを経てでき上がる羽毛ふとんは、心地よい睡眠に求められる機能を全て備えた、理想の寝具といえます。ここでは、寝具に求められる機能と合わせ、羽毛ふとんのもつ優れた特性についてご紹介します。

### ふくらあつたか【保温性】

羽毛はたっぷりと空気を包み込み温かさを逃がさないので、お年寄りや冷え性の方もぐっすりとおやすみになれます。

### ふんわり軽い

羽毛ふとんはとても軽いので循環器系や呼吸器系に過度の負担をかけません。また、ふとんの上げ下げも大変楽です。

### いつもさわやか【吸湿性・放湿性】

吸湿性・放湿性に優れ、いつでもさわやかな感触です。蒸れたり、じめじめした感じがありません。

### 優しくフィット【ドレープ性】

体に沿うようになじむため肩口を冷やさず、ふとんがベッドからずり落ちにくいです。

### お手入れ簡単

綿ふとんのように頻繁に日干しする必要がありません。

### 素材別製品の性能比較

| 条件    | 素材 | 羽毛 | 木綿わた | 化織わた | 羊毛 |
|-------|----|----|------|------|----|
| 温かさ   | ◎  | ○  | ○    | ○    | ○  |
| 軽さ    | ◎  | △  | ○    | ○    | ○  |
| 吸湿性   | ◎  | ○  | △    | ○    | ○  |
| 放湿性   | ◎  | ○  | ○    | ○    | ○  |
| 圧縮回復性 | ○  | △  | ○    | ○    | ○  |
| ふくらみ  | ◎  | ○  | ○    | ○    | ○  |

# グースとダックの農場からのレポート



## フォアグラ

キャビア、トリュフと並び、世界3大珍味の一つフォアグラ。ガチョウの飼育は古代エジプトで既に行われていましたが、フォアグラとして肝臓を好んで食べ始めたのはグルメの古代ローマ人です。ガリア地方(現在のフランス近辺)からもたらされたガチョウに、イチジクなどで肥育を施し、肥大化した肝臓を蜂蜜入りの牛乳などに浸し食材にしていました。その後、ローマ帝国崩壊によって一旦衰退しましたが、ルネッサンス期に再び食材として定着しました。

現在では全世界で食べられるようになりましたが、何と言っても最大の消費国はフランスです。生産量も消費量も世界一で全世界の生産量の約8割を担い、75%を消費しているといわれます。食べ方としては柔らかく加工しパテとしてパンに塗ったり、そのままソテーして食べたりするほか、トリュフなどを加えパイ包み焼きにするとも多いようです。とはいっても、一般的のフランス人でもクリスマスや新年のお祝いに食べることが多く、消費の8割は年末年始に偏っているようです。

2005年には、フランス人のフォアグラ好きが昂じ、国民議会の下院で「フォアグラはフランスで保護された美食的文化遺産の一部をなす」と全会一致で可決し、フランスの文化遺産とし

て制定されたほど。つい先日の欧州連合議会で「残酷な給餌方法で生産されたフォアグラの取り引き中止を求める提案」が反対多数で否決されるなど欧州でもフランスの伝統文化としてしっかり認知されているようです。

しかし、フォアグラを作る過程に対し動物保護団体からの風当たりは強くなって来ています。こうした団体は、「パイプで餌を直接胃に流し込む強制的な給餌方法がガチョウにストレスを与えている」「狭い柵の中に閉じ込め身動きの取れない状態で不衛生な環境で肥育されている」「強制的に肝臓を肥大化させ不健康な状態にしている」と、航空会社、一流レストラン、販売業者にフォアグラのメニューへの取り入れや、取り扱いをやめるよう抗議しています。

このような声を反映しEU諸国では既に定着している場合を除き、強制的な給餌による肥育を新たに行なうことを禁止する条約が制定されています。新たな生産地を確保するため、欧州の生産業者は中国に生産拠点を移しつつあると言います。

文化伝統を守るべきか、動物愛護の立場に立すべきか難しい選択に迫られているのは日本ばかりではないようです。

# 羽毛ふとん 「日本製と外国製」



羽毛ふとんメーカー「安心堂」の若社長「安心くん」。羽毛ふとんのことや原料の羽毛の事などを、皆様にわかりやすく解説します。今回は、いろいろある日本製の羽毛ふとんについて…。

ちょっと安い商品を手に取ってみると、ラベルに○○製という外国名の文字が目に飛び込んできます。昨今、日本の市場には多品種の外国製商品が溢れています。日本国内で外国の製品を扱っているある有名なお店でのことですが。以前、海外のお客様が日本を訪れたとき、そのお店で大量の製品をお土産にと購入していました。お客様の国にもそのお店が有にも拘らず何故日本で買うのか疑問に思い尋ねたところ、日本で売られている製品は品質が良いというのです。どうしてかと聞き返すと、そのお店の商品には品質に日本仕様という基準があり、合格したものだけが日本で販売され、不合格の品は生産された国で販売されるそうです。コストダウンのためにロスを最小限に押さえ、戦略的に不良品の処理が行われているでしょう。なかなか合理的な手法です。ただ、衣料品の場合は外観検査での管理が可能なため容易に不合格品を検出できるので、このような構図が成り立っているのでしょうか。海外生産では、衣料品に限らず日本基準に合わないものが有ると云うのは事実のようです。

羽毛ふとんにも日本製と外国製があります。外国製とは基本的には海外で織られ染められた生地をその国で縫製し、この側生地に海外で精毛された羽毛を充填して最終製品となるもので簡単に説明が出来ます。しかし、日本製と言っても

ちょっと複雑で、例を挙げますと、海外で織られた生地を使って海外で縫製された側生地と海外で精毛された羽毛を別々に日本に輸入し、日本で最終製品にした日本製の羽毛ふとんがあります。また、日本で織られた生地を使って日本で縫製された側生地に、日本で精毛された羽毛を充填して最終製品にした純粋な日本製があります。同じ日本製でも全く内容の違う日本製となるため同じ表記内容でも価格の異なる羽毛ふとんが存在するのはこのためです。

日本製の極端な二例を挙げてみましたが、日本製にもいくつかの方法の組み合わせ方によってはいく通りもの日本製が存在します。以前、試買テストを実施した時のことですが、日羽協のゴールドラベルのついていない、日本製にしては価格が安すぎると思われるふとんが店頭にあったので、試買品として購入し、業界関係者たちと一緒に解体して見たところ、20マスの角の1マスだけに他のマスとは明らかに違う羽毛が入っていました。不思議に思い細部をチェックすると、そのマスだけには内部からの羽毛充填口が無かったのです。要するに、1マスだけ羽毛が入っていない半製品、つまり材料として輸入し、日本で1マスだけ羽毛を充填して口閉縫製をすることで、最終工程は日本で行ったことにより日本製となったのです。これも日本製に間違ひありませんが…。